

5月22日 楽天グループ株式会社 上級執行役員 小野 由衣氏

## 学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ

本日はご講演いただき、誠にありがとうございました。

今回の講義では、小野さんのキャリアや、楽天という企業に根付くアントレプレナーシップについて学ぶことができた。印象的だったのは、小野さんが「日本から世界を目指すベンチャー企業に入りたかった」という志で、当時まだ成長途上だった楽天に入社したという話である。私が楽天を知ったときにはすでに日本を代表する大企業であったため、そのような視点で楽天を捉えることに新鮮さを覚えた。大企業の中にも、ベンチャー精神を持ち続けている人々がいて、その思いが今も企業文化として継承されていることに気づかされた。また、アントレプレナーに求められる4つの要素に加え、「アントレプレナーとは、未来に起こりうる課題をいち早く見つけ、それに取り掛かる勇気を持つ人」という言葉が特に心に残っている。ただ新しいことを始めるのではなく、これから起こる社会の変化や課題を敏感に察知し、それに向けて先手を打つように行動できる人が、真のアントレプレナーなのだと理解した。楽天が携帯通信事業という独占市場に挑戦した背景や、「儲けるためでなく、日本全体を元気にするための取り組みだった」という姿勢にも、その精神が現れていると感じた。この講義を通じて、自分の過去の経験も見つめ直す機会となった。私は高校時代に校則改定に取り組んだ経験がある。当時は、身近な課題に対して率直に疑問を持ち、自分なりに「変えられるはずだ」と信じて行動した。先生との交渉やアンケート調査など、小さな一歩を積み重ねる中で、周囲の理解を得て実際にルールを変えることができた。その経験は、今振り返るとまさにアントレプレナーシップの実践だったと思う。今後社会に出てからも、より大きな視点で課題を見出し、仲間とともに新しい価値を創造していきたい。また、講義の中で語られていた「差分を捉え、オリジナリティを導き出す」という考え方も非常に参考になった。目の前の事象を観察し、自分にしか見えない視点から課題を分析し、工夫を加えることが成果につながるという姿勢は、どのような環境でも応用できると感じた。アントレプレナーシップは一部の起業家だけが持つ特別な素質ではなく、社会人としての姿勢そのものだと実感した。現状を疑い、未来を想像し、自ら行動する人間でありたい。今回の講義は、自分のキャリアや生き方について考えさせられる機会となった。改めて、学びの多いご講演をいただき、ありがとうございました。（経営学部2年）

今回の講義を通してこれまで漠然と描いていた将来の姿に具体的な輪郭が加わったように感じた。就職活動が本格化する前の大学二年生という立場ではあるが、小野さんのこれまでのキャリアの積み重ねや、楽天という大企業での挑戦に満ちた実践的な話は、自分の

進路を考える上で極めて貴重な示唆となった。私は鹿児島から大学進学のために横浜へと上京した。地元にはいた頃は、自分の価値観や視野がいかに狭かったかに気づかされる日々である。多様なバックグラウンドを持つ人々と出会い、異なる意見に触れる中で、自分の考えが少しずつ柔軟になってきたように思う。小野さんが話されていた「変化を恐れず、むしろ変化に飛び込むことが成長につながる」という言葉は、まさにこの上京経験と重なる部分があり、大きく共感した。特に印象的だったのは、楽天での「スピード感」や「挑戦を恐れない文化」についてのお話である。小野さん自身も、国内外のさまざまな事業やプロジェクトに取り組み、キャリアの中で挑戦を重ねてこられた。その姿から、いかなる環境でも自ら機会をつかみにいく姿勢の大切さを学んだ。私自身、将来的には起業にも関心があり、まだ具体的なアイデアはないが、「社会にどのような価値を提供できるのか」を真剣に考えることが第一歩であると認識した。講義を通して、単に就職するというゴールではなく、自分自身がどのような人生を歩みたいか、どのような価値を生み出していきたいかという視点を持つことの重要性を実感した。今後の学生生活では、学業に限らず、課外活動や人との関わりの中で、自分の視野をさらに広げ、柔軟な発想と行動力を培っていききたい。また今後は、目の前の学びや出会いに真摯に向き合い、自分の可能性を広げる努力を重ねながら、将来的には自分自身の手で価値を生み出す存在を目指していきたい。そのために、まずは一日一日を大切に過ごし、経験を積み重ねていく所存である。(経営学部2年)

本日はお忙しい中にも関わらず我々のために講義をしてくださりありがとうございました。楽天グループの活動や、その事業展開を中心としたお話だったと思いますが、楽天という企業の存在こそ知っていましたが、どうしても野球とモバイルのイメージばかりが強く、具体的にどのような形の事業展開をしているのかを知る機会がなかったため、大変興味深いお話でした。個人的にはエコシステムを形成して、クロスユース率を高めるとおっしゃっていたところに関して、その段階に至るまでには迅速な事業成長、事業規模の拡大というところが必要になるということから、当初は一端のベンチャー企業として始まった会社がそこまで大きな規模の組織を形成できるようになるまでの過程には目を見張るものがあると感じました。

また、イノベーションのためには、「誰よりも先に壁にぶち当たる覚悟が必要」とおっしゃっていたところが強く印象に残りました。この先多くの人や企業がぶつかっていくであろう課題に対して、先回りして知見を得ておくというのは、大企業としての運営、イノベーションに限らずとも、もっと小さい規模、極端な話、日常生活などにおいてもその理念で大きなリターンを生むことのできる場面が数多くあると感じます。それ故、常に向上心や明確なコンセプトの設定などがより一層重要なものになるのだと学びました。最後になりますが、本日は我々学生のために貴重なお時間を頂きまして講義をしてくだ

さり、本当にありがとうございました。アントレプレナーシップというところを日々の生活の中でもより一層意識していければと思います。(教育学部2年)